

# 特別支援教育におけるキャリア教育(2)

— 一貫性・系統性を踏まえた学部及び学校間の連携・接続の工夫 —

企画者	菊地 一文 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)
司会者	工藤 傑史 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)
話題提供者	今野 和則 (宮城教育大学附属特別支援学校)
	川口 真澄 (東京都教育庁)
	森脇 勤 (京都市立白河総合支援学校)
指定討論者	木村 直孝 (北海道伊達高等養護学校)

KEY WORDS : キャリア教育 特別支援教育 学部・学校間連携

## 【企画要旨】

平成 21 年 3 月に告示された、特別支援学校高等部学習指導要領総則に「キャリア教育」の文言が位置付けられたことにより、特別支援教育においてもキャリア教育への注目が高まってきている。また、文部科学省研究協力校をはじめ、全国各地の特別支援学校においてキャリア教育に関する取組が進められてきている。

この流れの中で、キャリア教育の意義である、児童生徒一人一人の職業観・勤労観を育み、キャリア発達を支援するという点については周知されつつあるが、Marland(1971)の指摘した、もう一つのキャリア教育本来の意義である「教育課程等の改善」についても注目する必要がある。教育課程等の改善の視点としては、職業教育・進路指導研究会(1998)の示した「進路指導の構造化のための概念モデル」をベースとした 4 能力領域に基づく、国立教育政策研究所(2002)による「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」や国立特別支援教育総合研究所(2008, 以下 NISE とする)による「知的障害のある児童生徒のキャリア発達段階・内容表(試案)」(以下、本試案とする)が挙げられ、これらを基にした取組の充実が求められる。

NISE では、平成 20 年度～21 年度専門研究 B「知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究」において、本試案に基づく具体的な作業として、教職員のキャリア教育への理解、充実及び教育課程及び授業の改善等を図ることを目的とした諸ツールを作成した。これらは①授業を対象とした「授業における観点位置付け・授業改善シート」、②年間指導計画及び教育課程全体を対象とした「単元における観点位置付けシート」、③個別の教育支援計画を対象とした「本人の願いを支えるシート」であり、全国の研究協力機関等において試行された。これらのシートは、一貫性・系統性の視点からの指導内容の見直し、教職員の連携・協働、学部間・学校間のスムーズな接続を進める上でも有効と考えた。

本シンポジウムでは、NISE キャリア教育研究として取り組んだ、これらのツールに基づいた実践事例を中心に、キャリア教育を進める上での課題の一つである、学部間・学校間の接続の問題に焦点を当て、今後のキャリア教育の視点による特別支援教育の充実を図るための具体的な解決策について検討する。

## 【話題提供の要旨】

### 特別支援学校における教育課程及び授業改善の取組(今野)

特別支援学校の課題として、小・中・高の連携による教育課程改善の必要性が指摘されているが、組織的・時間的問題により困難な場合が少なくない。「単元における観点位置付けシート」による年間指導計画の分析等は、作業によって自校

の教育課程がどのように児童生徒のキャリア発達を支援していたかに気付くと同時に、キャリア教育がこれまでの教育実践をキャリア発達の視点で捉え直すことによって明確化されるものであることが理解でき、より身近なものとなる。これらの取組を通して、本格的な学部間連携による新しい教育課程編成等につながるであろう道筋について報告したい。

### 小・中学校特別支援学級における共同研究の取組(川口)

小学校・中学校・高等学校の系統的な指導の下、様々な教育活動の機会を捉えて、児童・生徒が達成感や自己有用感を味わえるようにするとともに、自分の将来像のイメージを持ち、主体的に進路を決定できる力を培っていく必要がある。

本研究では、小学校段階からキャリア教育の視点を明確にした指導を推進していくため、都内の小・中学校特別支援学級教員が連携・協働し、小学校から中学校段階までに育てたい具体的な能力や態度について検討し、「キャリア教育発達段階表」を作成した。キャリア教育発達段階表の各視点を取り入れた指導や中学校特別支援学級における職場体験の実践、キャリア教育を生かした「個別の教育支援計画」等の事例とその成果について報告する。

### 中学校特別支援学級と特別支援学校高等部における交流及び共同学習の取組(森脇)

中学校特別支援学級から特別支援学校高等部への進学を「節目」として捉えることで、生徒のキャリア発達を促す絶好の機会となる。高等部進学に対する不安を安心と期待に変えていくプロセスを、キャリア教育の視点で見つめることが大切である。交流及び共同学習「ようこそ先輩」の取り組みや高等部入学相談における「体験入学(オープンキャンパス)」の取り組み等の事例を通して、中・高の「接続」とキャリア形成の支援の在り方について報告する。さらに、進路相談や入学相談において、キャリア教育の観点をふまえた考え方を「節目」として位置づけることで学校間の系統性が見直しになると考えている。

## 【指定討論の要旨】

以上の話題提供を受けて、木村氏にはキャリア教育の視点から各取組における意義と、学部・学校種間の接続の問題を押さえていただいた上で、今後のキャリア教育の充実を図るための具体的な方策及び課題への対応について意見をいただく予定である。フロアの意見も交えながら、活発に討論を深めていきたい。

## 【文献】

国立特別支援教育総合研究所(2010) 知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究 研究成果報告書。  
(KIKUCHI Kazufumi, OSAKI Hirofumi, KONNO Kazunori, KAWAGUCHI Masumi, MORIWAKI Tsutomu, KIMURA Nobutaka)